



2024年2月15日

一般財団法人ちくご川コミュニティ財団

休眠預金等活用事業「困難を抱える家庭を取り残さない仕組みづくり～子ども若者とその家族のためのコレクティブインパクト～」実行団体公募 内定団体の決定について

一般財団法人ちくご川コミュニティ財団は、休眠預金等活用法に基づく実行団体の公募を実施し、内定団体を決定しました。

今回、10事業（10団体、内1団体はコンソーシアム申請）の申請があり、審査の結果、6事業（6団体）、最長3年の助成総額1億480万円を選定しました。

※実行団体名とその事業名等は別表の通りです。

今後、内定団体は弊財団との資金提供契約を締結後、本年3月から事業を開始する予定です。

<本件に関する問い合わせ>

一般財団法人 ちくご川コミュニティ財団

〒830-0048 福岡県久留米市梅満町 563 TEL : 0942-34-5600

FAX : 0942-34-5777

E-mail : kyumin@c-comfund.com（休眠預金等活用事業窓口：庄田、鬼丸）

(別表) 2023 年度休眠預金等活用事業「困難を抱える家庭を取り残さない仕組みづくり」  
 実行団体公募 採択事業

事業名	学校アドボカシー事業 事業名(副): こどもが自分の環境の困難さを認知・表現できる地域づくり事業	
団体名	特定非営利活動法人 にじいろ GAP	
所在地	福岡県三潁郡	
事業の概要	<p>i) 久留米市・大刀洗町の各学校と協議して、「学校アドボカシー事業」の理解と協力を要請します。対象学校が決まったら、各学校に月に1度「学校アドボケイト」を派遣します。</p> <p>お昼休みを利用して広い会場で2人のスタッフがと1名の補助員が子どもたちの話を聞きます。困難を抱える子どもが少しずつ①「自分の気分を表現する。」②「自分の気持ちを言葉で表現する。」③「家庭の困難改善を人手伝ってもらう。」等アドボカシートレーニングまたは友人を支える等の体験を重ねていくことで困難を抱える家庭への子どもからのアクセスの向上を図ります。この事業を実施するために、毎年「学校アドボケイト養成講座」と「アドボケイト補助員養成セミナー」を久留米市で実施します。また、各アドボケイトのスーパーバイズを行うことで事業の質を担保します。</p> <p>また、毎年少しずつレベルを上げていきつつ、アドボケイトの人数を増やしていきます。</p> <p>ii) 子どもたちの話の中からアセスメントが必要な状況を抽出し、アセスメントを行います。アセスメントシートを作成し、現場で利用しながら改善を積み重ねていきます。アセスメントの結果何らかの支援が必要と判断した事例に対して、子どもの同意を取ります。</p> <p>iii) 子どもの同意のもとで、学校、久留米市・大刀洗町、久留米児童相談所、関連NPO当チーム等に繋ぎ、支援を実施します。その結果を子どもと共有しながら改善につなげていきます。</p> <p>子どもから直接家庭や環境の困難を聞くという手法を地域の支援者や支援NPOに伝え・理解され・支援されるために、地域で「アドボケイト補助員養成セミナー」を開催します。</p>	
事業期間	2024年3月～2027年2月	
助成額	助成金	19,600,000円
	評価関連経費	940,800円
	合計	20,540,800円
審査員講評	選定理由	<p>広域的な小中学校への子どもアドボカシーの実践により、子どもの声を通じてこれまで把握できなかった困難を抱える家庭へのアクセスが大いに期待できる。学校で直接子どもたちと接点を持ち、声を聴く手法は申請団体の中でも唯一であり、他のチームとの連携による波及効果が評価された。</p> <p>他団体と密に連携してチームとして動いていくことで、本事業が掲げる社会課題解決につながると期待できる。</p>

※助成額は実行団体よりご提出いただきました事業計画書・資金計画書に基づき算定しております。

事業名	互いに手を取り合い生きやすい地域をつくるための事業 事業名（副）：心もお腹も満たされるいろいろ端の様なあたたかい居場所づくり	
団体名	いろいろ	
所在地	佐賀県鳥栖市	
事業の概要	<p>昼間は不登校や通信制の学校などで学ぶ子どもやその親の居場所として、また産後間もない中で居場所が自宅しかない様な保護者の息抜きの居場所として開所する。「おばあちゃんの家」の様な大人も子どもも第三の居場所として「いつもそこにある安心感」を提供する。今までも一緒に行政窓口の相談に随行したり専門家へ繋げる事をしてきたが、定期的に会う機会が無いと相談しづらい様で事態がこじれるまで我慢している事もあった。日常の何気ない雑談の中に「悩みの種」は潜んでいる事もあるため、雑談をしながらその悩みの種を見つけ早期解決のヒントを本人と一緒に見つけ拗らせない事を目指していく。子ども達の幸せはまずはその周辺の大人たちが幸せであることが基本になるという理念のもと、さまざまな物心両面で横に並んで一緒に歩む伴走者としての支援を目指す。保護者の中には前職や副業で現職とは違う職業の資格や技能を所持していることもある。将来的に店やサロンを持つ事を希望している者には部屋を使ってもらい、その夢に向かい技能の腕を磨いてもらう空間にする。夜に帰りが遅く孤食になる子どもたちや大人たちには食事を提供し、交流や癒しの時間としてもらう。これまでも生活に不安が強い利用者や精神疾患を持つ利用者などからは夜間に不安を訴えるLINEを受け対応していた事もある。精神疾患の有無に関わらず不安や孤独が深まる夜間には顔が見える傾聴をして寄り添う。介護には夜間のレスパイトが認められているが、育児には夜間のレスパイトが無い事から必要に応じて宿泊する事も受け入れる。</p>	
事業期間	2024年3月～2027年2月	
助成額	助成金	6,868,000円
	評価関連経費	329,664円
	合計	7,197,664円
審査員講評	選定理由	<p>拠点とされている地域の中でまだ不十分な活動に着目した事業内容は十分検討された跡がみえ、その発想と思いの強さが高く評価された。特に中高生にも着目されている点は、将来彼らが社会人になった時に貧困の連鎖に陥らないようにする重要な手立てになると期待できる。</p> <p>設立後間もない団体ではあるものの、他団体との協働を通じて事業の実施体制が確立できることが期待できる。またすでに行われている公式LINEの運用など、自団体ですでに有しているノウハウ等が他団体と共有されることで、チームに相乗効果をもたらすと思われる。</p>

※助成額は実行団体よりご提出いただきました事業計画書・資金計画書に基づき算定しております。

事業名	障害や病気をもち困難を抱える家族を地域で支えるしくみづくり	
団体名	特定非営利活動法人 久留米市手をつなぐ育成会	
所在地	福岡県久留米市	
事業の概要	<p>久留米市及びその周辺地域において、特に障害・病気などの困難を抱えた家庭が取り残されないために、以下の事業を行う。</p> <p>1. 訪問によるアクセス活動・アプローチ活動＝オリジナルチーム編成型の個別支援 医療機関や幼児教育研究所などと連携し、障害や病気をもち子の家族をできるだけ早い段階で、同じ立場の家族とつなぐことのできる仕組みを作る。また、居場所やイベントなどでつながった人づてに、「実はあの子が気になる」「そういえば、その家族も心配」など、行政の窓口まではいきつかない周囲の気づきやおせっかいを集めていく。こうして把握した家庭に対して、様々な背景や領域のピア（仲間）の人が関わるチームを作り、複数人による各家庭へアプローチする「オリジナルチーム編成型の個別支援」を行う。</p> <p>2. 居場所・イベントなどによるアクセス活動＝居場所・仲間作り 定期的なイベントの開催やオープンスペースの運営により「誰もが参画でき常連になれる居場所作り」を行い、そこでの何気ない会話から家庭の困難を常時拾い上げる。また、障害や病気をもった子が参加しやすいイベントを開催し、その家庭にアクセスするとともに、悩みや気になることが相談しやすい居場所につなげることで、より困難な状況に陥る前の予防的視点も重視する。</p> <p>支援を受けつつも持続可能に地域で生きていくには、個別化した支援をさらに外部に開いていく必要があり、本提案は、ピアサポートの要素をもった個別支援チームを作っていくことや、イベントや居場所における支援を通じて、様々な領域のピア（仲間）の人が関わることで家庭にアプローチしつつ、解決を「家庭+α」に広げていく。</p> <p>また、個別支援で出会った子ども・親がイベントなどの運営に関わり、また次の子どもたちを支援する循環も意識する。この様に支え合いを通して地域での見守る人を増やし、困難を抱える家庭を取り残さない地域社会を目指していく。</p>	
事業期間	2024年3月～2027年2月	
助成額	助成金	6,917,024円
	評価関連経費	332,017円
	合計	7,249,041円
審査員講評	選定理由	<p>障がいのある子どもや成人の方へこれまで丁寧に活動を行われてきた実績を踏まえた事業内容であり、ビジョンの明確さ、実現可能性の高さが高い評価を受けた。</p> <p>事業対象者と真摯に向き合ってきた姿勢や丁寧な振る舞いがコレクティブインパクトチームに共有されることが期待される。</p> <p>障がいや病気を抱える世帯に寄り添い、地域コミュニティをつなぎ合わせる役割はチームの一員として欠かせず、協働の中でより具体化していったらいい。</p>

※助成額は実行団体よりご提出いただきました事業計画書・資金計画書に基づき算定しております。

事業名	孤育てをなくしお母さんを笑顔にするエンパワメント 事業	
団体名	お母さん大学福岡（ちっこ） 支局	
所在地	福岡県久留米市	
事業の概要	<p>孤立してしまい支援につながりづらい状況になる前に安心できるつながりをつくり“孤育て”を予防することで、シングル、貧困、産後うつ、虐待、ネグレクト、不登校など実際に困難に陥った際にも迅速に必要なサポート、地域資源につながるができるシステムを構築する。どんな状況になっても安心感のある子育て、「母になれてよかった」と心から感じられる社会の実現に向けて事業を行っています。①孤立した子育てをなくしお母さんの笑顔をつなげる「お母さん業界新聞」を久留米市とその近郊の保育園幼稚園、または赤ちゃん訪問時など子育て中の母親に直接配布。そうすることで孤立した子育てを予防し子育ての喜びを感じられる社会へと醸成する。② 子育て中の母親自身が「お母さん記者」となり発信をすることで子育ての学びあいの場ができお母さん自身の人間力（地域とつながる力、周りにたよる力、自分の内面をシェアできる力、誰かのためにと動ける力）を育てる。③ 築45年のアパート（松葉荘）の1室を活用し母子の居場所づくりを行い地域とのつながりづくり、学びあい、仲間づくり、子育ての苦楽を共有できる環境を提供する。④ 必要な資源、専門家とのパイプをつくり、必要に応じて組織で対応できるアセスメントの仕組みを構築する。⑤必要な資源につなげるための連携の仕組みを形成する。⑥不登校の親とその子どもたちのための体験の場やつながりの場を提供する。⑦企業内での子育て中の社員のセーフティネットとなる。</p> <p>・久留米市と佐賀市という離れた場所で展開することで、産後うつや不登校など同じ地域の人には知られたくないから近くの集まりには出かけられないというリスクを回避する。</p>	
事業期間	2024年3月～2027年2月	
助成額	助成金	18,031,512円
	評価関連経費	865,512円
	合計	18,897,024円
審査員講評	選定理由	<p>お母さん業界新聞を通じた発信力と人や企業、行政を巻き込み、関係各機関との連携を図りながら、母親自らの生きる力を引き出そうとされている事業内容が高い評価を受けた。</p> <p>また、得意分野である情報発信については、チームの活動を広く展開していく上で有用と考えられ、波及効果が期待できる。</p> <p>さらに、地域企業と連携した不登校の子どもたちとその家族に対応する「町は学校プロジェクト」は地域企業を本事業に巻き込む窓口としても、期待できる。</p>

※助成額は実行団体よりご提出いただきました事業計画書・資金計画書に基づき算定しております。

事業名	困難を抱える家庭の支え合う暮らし「3分の1生活」プロジェクト	
団体名	一般社団法人 umau.	
所在地	福岡県久留米市	
事業の概要	<p>当事業により、困窮する家庭・困難を抱える家庭の「3分の1生活」が成立する仕組みと環境を整えることを目指す。</p> <p>「3分の1生活」とは、月に30万円の収入を得るために頑張るのではなく、現在の月収10万円でも豊かに暮らし合えること。そして毎日の家事や育児や仕事のルーティーンをみんなで支え合うことで時間や心に余裕を持てる生活を行なっていくことを指す独自の用語である。</p> <p>私たちが取り組む社会課題は「貧困」。活動の中で実感している、経済的貧困の要素として経験不足や生きてきた家庭環境、教育の不成立や愛情不足等、様々な「不足」から現社会の常識には追いつくことが出来ず、責任を果たせず、生きづらさを感じるまま抜け出せない家庭がたくさん存在することがわかってきた。</p> <p>この抜け出せない環境に逆らう方法を見つけ出すよりも、素直に受け入れ合える環境をつくり、個人や各家庭毎に頑張って生きていくのではなく、他人同士でも損得勘定のない支え合える環境をつくることによって、「貧困」からの脱出を目指していく。</p> <p>当事業において、アクセス・アセスメント・アプローチの強化と環境整備を行うことにより、まだ出逢えていない人の協力が必要なご家庭と共に生きていける関係性を築き、その多様なご家庭に必要な支援や制度等が繋がり、更に同じ志を掲げ連携し合える仲間と共に、活動をコーディネートし社会的役割をみんなで分け合い広く深く支援体制を整えていくことを3年間で実践していく。</p> <p>わたし達は「血縁のない大家族」と掲げて活動を続けてきた。各家庭だけに、今後の社会を担う子ども達の生活環境の責任を持たせることは、あまりにも無謀なことだったのではないかと感じている。「貧困」という課題は、各家庭の問題だけではなく地域社会全体で、考え、担い、協力する必要性がある。</p> <p>3分の1生活を成立させることで、困難を抱える家庭の希望ともなる生き方の選択肢を構築する。</p>	
事業期間	2024年3月～2027年2月	
助成額	助成金	30,000,000円
	評価関連経費	1,440,000円
	合計	31,440,000円
審査員講評	選定理由	事業計画の内容が地に足が付いたものであり、細部にわたって考えられている点について高い評価を受けた。また、貧困や産後うつなど、切実な課題を持つご家族に寄り添ってネットワークを作ってこられたことは素晴らしい。
		Aのコーディネーター役の団体として連携体制を構築していく上で、すでに様々な団体との関係性を持っていることから適任ではないかと評価された。今まで手の届きにくかったところへの支援を他団体と連携していく中で実現されることが期待できる。

※助成額は実行団体よりご提出いただきました事業計画書・資金計画書に基づき算定しております。

事業名	地域の力で産後ケアをうける事があたり前の社会をつくろう	
団体名	一般社団法人 産前産後サポーター協会	
所在地	福岡県小郡市	
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産前産後ケア後困難を抱える伴走支援事業</li> <li>・産前産後からつながった母子とその家族が気軽に利用できるカフェの設営</li> <li>・予約なくいつでも相談休息できる場の居場所づくり</li> <li>・地域に根差した伴走型の学習療法</li> <li>・産前産後が要である食育学習支援、自分の人生を振り返ることのできる場としての子供に限らない自分の存在を認めてくれる場、ぎくしゃくする家族を整え厚生する場・産前産後の限定せずだれでも出入りできる安心の場を</li> <li>・行政では拾えない長期スパンのフォローができる場</li> <li>・悩みの多様性に（不登校・発達障害）全て相談ができ、関連行政、病院、社会資源につなげる</li> <li>・地域でともに解決方法を探る</li> <li>・西洋医学以外の自然の摂理を考えた中国医学を中心とした広い選択肢とともに長期的な自立のできる知恵とケアの提供取り組む・定期的な家庭で活かせる情報提供の講座を設け浸透させ、誰もが自然の中で、ストレスなく生活できる社会を目指す。産後ケア事業の拡充、とくに産後ケア事業に重きを置いている久留米市近郊の病院との連携、NPO 団体、社会教育、自治体、学校、性教育を含めて男性の子育てスキルアップのための講座・女性の妊娠出産子育てに係る人間関係の関わり合いの仕方、生活に密着した行政のパパママ教室を超えた生活に密着した活動をカフェにて行う・おじいちゃんおばあちゃんの現代の育児教育・伴走支援者の教育・体験型（料理・子育て・野菜作り・視線に触れる・味噌づくり・）体験することによって与えられるだけでなく自分で自分の身体にしみこませて、人生に活用できるような体験の提供。立地条件を生かした体験教育を取り込みながらあなただけのオーダーメイドケア教育の提供</li> </ul>	
事業期間	2024年3月～2027年2月	
助成額	助成金	18,583,464円
	評価関連経費	892,006円
	合計	19,475,470円
審査員講評	選定理由	<p>産後うつなどの課題を抱える母親に、産前産後ケアという形で、早期に寄り添うことで孤立を防ぎ、課題が表面化した場合に早くアプローチしていくという事業内容が高い評価を受けた。</p> <p>また、提案された事業は社会的に意義があり、必要性が高く感じられる内容である。</p> <p>本団体がコレクティブインパクトチームに入ることによって、産前産後ケアの専門性等が他団体の事業に波及効果をもたらすことが期待される。</p>

※助成額は実行団体よりご提出いただきました事業計画書・資金計画書に基づき算定しております。